

京都教区時報

小教区の頁—亀岡教会
特集—ビジョン推進連絡協議会
連載—コミュニケーション年にあたって

第 84 号

発行所

京都市左京区仁王門通新高倉東入

京都カトリック教理センター

広報室 (Tel761-9095)

編集責任者 村上透磨

編集部 教理センター

田中司教認可

難民定住への訴え

田中司教

昨年12月、難民定住についてのアピールを日本司教団が全信徒に向け発表し、難民を「最も近い隣人」と認め、福音のあかしとして積極的に協力していくよう訴えたことをみなさんはよくご存じだと思います。

この事を教皇様も強く訴えられ、昨年のアジア司教協議会第三回総会で、これをアジア共通の問題として取り組もうと決議しました。宗教や文化の発祥地であるこのアジアの一

ベトナム難民に安住の地を 小さい人にしては事...



角に生活させていたでいる私達はその恩恵に浴して生きております。しかしアジアは精神的に豊かだが、物質的には貧しい地方でもあります。その中で難民の問題は私達アジアの国民が共通にかかえる最も大きな基本的人権にかかわる問題であります。それは自由に生きる権利を奪われた人々の、生命と貧しさとの戦いであり、安全に生きるための住居を追われた人々の苦しみと悲しみが集約され

たうめきから出る、切実な問題です。

故郷を追われ、愛する祖国を追われる事の苦しみを私達には十分理解できないかもしれせん。しかしまたそれだけに彼らの痛みを知るように努めるべきではないでしょうか。さて京都教区には御所に71名の方が、又田野の天理教の教会には87名の方がお世話になっております。祖国を出て外国で生活せざるを得なくなったこれらの人々は、はじめ希望した諸外国への安住も、それらの国々が門戸を閉ざしはじめた今、それで仕方なしというわけではありませんが、日本定住を考えなければならなくなりました。彼らは本当は日本定住をはじめから望んでいたようですが、言葉其他今迄の交流のうすさからくる困難さや日本人は自分達を引き受けてくれないだろうと云う不安を持っていられた様であります。

私達京都教区民は、すばらしいビジョンをつくり上げ、その中で弱い立場に置かれている人々に心を開こうと決意しました。そしてそれが狭い日本に留まらず、アジアとして広く世界に向けて開かれることを期待しました。社会の人々は今カトリック教会に注目しています。もし私達が、この問題に具体的な処置を講じなければ、教会は見捨てられるかもしれないとさえ思っております。そこで私がみなさんに心からお願いしたい事は、誰かが見ているからと云うのではなく、「小さい人にした事は私にした」という福音の精神に基づいて、直接に関係して下さっている奈良の信徒の皆さんと協力して、具体的に一人でもよいから自分達でめんどろを見ろといった事を考えながら真剣に取り組んでいただきたいのであります。

教区短信



- 3月19日(土) 聖マリア養護学校卒業式
聖母の家学園(養)卒業式
- 3月20日(日) LMアチエス(河原町)
- 3月21日(月) 助祭叙階(大塚神学生)
- 3月22日(火) 教会学校教師会総会
- 3月23日(水) 教区幼稚園連盟研修会
- 3月24日(木) 初誓願(今出川op)
- 3月25日(金) 「贖いの特別聖年開幕」
- 3月27日(日) 中川助祭叙階(カルメル会)
- 3月29日(火) 枝の主日(受難の主日)
- 3月29日(火) (財)カリタス会理事會
- 3月30日(水) 聖ヨゼフ整肢園新棟祝別
- 3月31日(木) 司祭評臨時會議
- 聖木曜日 聖香油のミサ
(教区神学生の選任式)

- 4月1日(金) 認定式) 主の晩さん
- 4月2日(土) 聖金曜日(一)受難、二死去
- 4月3日(日) 聖土曜日 復活徹夜祭
- 4月6日(水) 贖いの復活大祝日
- 4月7日(木) 聖母の成人棟祝別式
- 4月18日(月) 大司教来日、来洛(庭野平和賞第一号)
- 4月20日(水) 教区付邦人司祭月例会
- 4月22日(金) 諸宗教聖省長官Jシ
- 4月24日(日) ヤド大司教訪日、来洛
- 5月5日(木) 教区内男女教区長會議
- 5月5日(木) OFM伏見教会着任
- 右近こども祭(大和椿原)

司教の足どり

1月～3月



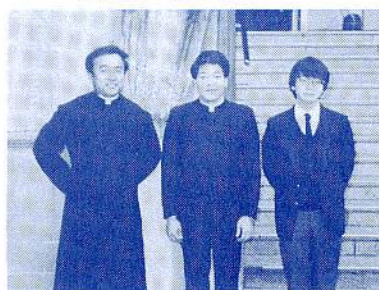
1月
15日(日)信徒使徒職委研修会(箱根)
16日(日)河原町典礼部新年会。H弁護士を囲む特別会議。カブチン副管区長と面談
17日 教区付邦人司祭月例会。召命促進委新年夕食会
18・19日東京神学院司教常任委。
21日 カノッサ修道女会総長、管区長、レデンブートル管区長来訪
22日 メリノール女子学院ブルー地鎮祭。同学院理事会。
23日(日)彦根教会ミサ。同信徒会と懇談。
24日 SSND地区長と面談
25日 教区事務職員送迎昼食会。教会一致祈禱週間(河原町)
26日 諸宗教WCRP・一灯園代表と面談。
27日 OFM代表と面談。
28日 国本師母堂の見舞。
29日 故パウロ白石氏密葬合同司式(八木主教と共に)
30日(日)信徒養成コース第二回同窓会(洛星)。女子カルメル会訪問。
31日 司祭評議会定例会。京都商工会議所代表来訪。カリタス・ジャパン松村師来訪。

2月
1日 KCCミサと総会。ビジョン推進連絡事務局集会。
2日 母と老司教の見舞(聖マルチン病院)。古屋司教見舞。
3日 司祭評常任委。
6日(日)河原町ミサ(都の聖母像複製・百年誌完成)。御受難会管区長来訪。日本26聖人記念ミサ(小寺)
7日 河原町マリア会代表来訪。
9日 Y氏と面談。
古屋司教見舞(83才誕生日)。エスコラピオス管区長代理来訪。
教理センター訪問
10日 日本仏教青年会代表来訪。庭野平和財団理事長ほか来訪。
11日(日)関西OFM京都巡礼(殉教者コース)伏見ミサ。河原町ヨゼフ会総会。
12日 レデンブートル会管区長と面談。
14日 京正平協代表と面談。
14日 部落解放同盟中央委とキリスト教々団との話し合い会(大阪)
15日 ビジョン推進事務局会。
16日 灰の水曜日。
17日 全国修女連地区準備会京都の部。司祭評常任委。
18日 葉上大僧上来訪
19日 白石未亡人、京都新聞社長ほか来訪。WCRP事務局と面談。
人権と同和学習会(WCRP主催、於河原町)
20日(日)四句節司教教書朗読。
21日(日)邦人司祭月例会。津教会代表と面談。
22日 マニラ関係者への親書(ジョア

3月
1・4日休養(アガーニヤ教区)
6日(日)河原町ミサ。同ヨゼフ会と相談(中国宗教界友好訪日団受け入れについて3/15)
7日 司祭評臨時会議。
8・11日宇和島市戸島巡礼。
12日 T師と面談。八木主教ほか来訪
13日(日)李神父(韓国ラザロ村)他来訪
14日 教区付邦人司祭月例会。MM管区長団と面談。
15日 ND小卒業ミサ。中国宗教界友好訪日団代表来訪。
16日 中国訪日団歓迎夕食会(於グラインドホテル諸宗教)
17日 長岡幼稚園司教座聖堂卒園巡礼。司祭評常任委員。
19日 園部聖家族幼稚園司教座聖堂卒園巡礼。
20日(日)聖母の家学園理事会。卒業式(四日市)。
21日(日)助祭叙階式(大塚神学生・河原町)。教会学校教師総会。
23日 教区カトリック幼稚園職員研修会(斎藤いつ子先生)

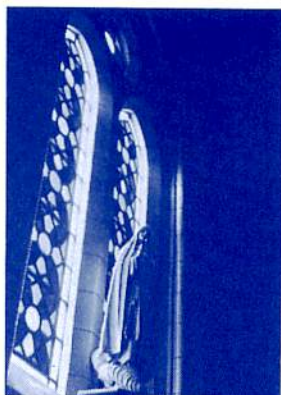
24日 ドミニコ修女誓願式ミサ(今出川)WCRP青年部会議(国際ホテル)
25日 「贖いの特別聖年開始」。助祭中川修道士、宇治カルメル。カルメル会総長と面談。
3月21日10時、パウロ大塚喜直師の助祭叙階式が、田中司教と約30名近い司祭の共同司式、家族信徒多教の祈りの中に荘厳にとりおこなわれた。
田中司教は京都司教就任以来はじめて教区の神学生の助祭叙階式を行ったと、感慨深げに語った。この事は教区の新司祭の誕生が久しくなかった事を意味する大塚師は尚、一年間、神学校で勉強した後、来春司祭に叙階される予定である。師が神の恵みとみなさんの励ましにより支えられて、更に司祭叙階に向けて、研さんに励まれる事を願ってやまない。
次いで3月31日、(聖木曜日)聖香油のミサの中で使徒ヨハネ田中賢一神学生が宣教師奉仕者に、セバスチャン柳本昭神学生が認定式を終えた。

大塚神学生 助祭に 宣教奉仕者 田中賢一に 認定式 柳本神学生



河原町教会 「宣教百年の歩み」 発刊

一九八三・二・六



河原町教会百年史編纂を終えて

最初の洗礼式が一八八〇年の二月五日、日本二十六聖人殉教者の祝日に高倉二条の仮聖堂で、ビリオン神父によって密かに行われて以来百年。河原町教会聖親会では、百周年記念行事の一環として記念誌の発行を決定。東門神父・故山口康夫氏を中心に編纂委員会が作られ活動を開始した。しかし各委員不慣れな上に百年という歴史は如何にも長く、この事業の完成には色々な困難が予想された。

当初は関係者及び信者より、古い資料や文献等を集め、委員会で検討するのが一年位も続いた。席上で問題が出れば事実を確かめる為に分担して調べに歩いた。その結果、開堂式当日の写真を手に入れる事が出来たのである。それは当時の様子を知らぬ貴重な写真であった。続いて時代を追っての原稿の作成、資料の分類、写真の収集、撮影と作業は続いた。文章を纏める片傍ら、できるだけ当時の写真

を全ページに配して、どの時代も見易いように工夫した。その間、山口委員長が急逝され、悲しみの内に最後の一年間は原稿、写真の配置の再検討。校正と限られた時間をさいての作業に追われ、あわただしい三年間であった。

今、編纂を終って私たちの思いは、いつの時代にも教会を中心に、司祭を助けて働く多くの熱心な信者たちの祈りと犠牲が、尊い歴史を形成してきたという思いがする。特に布教活動の困難な時代のビリオン神父と伝道士たちの苦勞。バリエ外国宣教会やメリノール会の物心両面の援助。戦後のスラインバック神父の愛の活動等は、印象深く浮んでくる。

ビリオン神父によって蒔かれた一粒の種は、今、八千余の信者となって実を結び、そして多くの聖職者、シスターを輩出し、全国各地で人々の救済の為に日夜働いておられる事を忘れてはならないと思う。京都の母なる教会「河原町教会宣教百年の歩み」をしのぶ為、都の聖母、鮮血遺書、都のキリシタン遺跡の地図、十字架の道行等を眺めそれぞれの信仰の糧として頂ければ幸いである。

最後に教区の皆様から寄せられた多くの情報・資料・写真等、誌面の都合で全部採用出来ませんでした事を、この紙面をかりましてお詫び致します。

又、「宣教百年の歩み」を有料配布（一冊千円）致しております。御希望の方は河原町教会へお問い合わせ下さい。電話（〇七五）二三一―四七八五

（百年史編纂委員 島崎 寛児）



もしもしの電話

今、何を……

(A) 学校で、僕、いじめられて、お金、持って来いというやつがいて、前にも一回渡したのに、又云うし……前は五千円渡し、一度断つたら、猛烈どつかれて、恐くなって渡した。僕だけでなく友達も、そんな目に合っている。その友人がここに居るから聞いて……（友人Bと替る）

(B) 実は最初、僕がおどされて、先生に云うたら、職員会議でも問題にしている、もうすぐ卒業やし、我慢せいで、みたいな事云うてあてにならない。それで其奴のお母さんに全部話したら、今度はA君に云うて来たんや、もうどうしたらいいかわからん先生も逃げてる感じやし、先生なんかもうええねん、高校も其奴といっしょみないで難儀やねん……以上中三男子の相談である。正に現代社会の病むべき問題である。この相談の中で最も注意しなければならぬ点は「その子の母親に話したが……」と「先生は、あてにならない」この二句である。昔から、親、先生は厳しい者ときまっていた苦が、いつの間にか、今の世の中には、物わりのいい大人達ばかりになってしまっているのではないか。学校現場で働く先生方には申し訳ない気がするが、その先生も含め私達

大人は根本的な考え方から間違っている。日教組が悪いとか、誰かが「少年非行、校内暴力の根は、米占領政策にある」と云われたことが、考えのズレも甚しいとか、勿論いろいろの意見、批判はあるだろうが、しかし責任転嫁に終らそうとするその態度こそ最も問題があるのではないか。キリスト者の立場から云えることは原点に戻り学校をキリストの体と考えた時、先生、生徒とおのずとそれぞれの立場役割がはっきり分り、一人一人が勇気を持ってキリストの愛を行い主のわざに励む時、私達は己自身の労苦が無駄でないことが分る筈なのだ。互いに思いやり、互いに兄弟のように愛すれば……今、大人の私達がまずその手本を示す時期であり、現代社会に一番欠けている点であることは確かである。

おしらせとお願い。

◎ 韓国（京畿道）ラザロ村（癩病患者の村）李神父は京都でこの村のためのスポンサーを探しています。韓国には約二百の癩患者の施設があります。

◎ 釜山アメリカ文化センター放火事件。良心犯を救援する国際署名に御協力を。金鉉獎 文富軒両氏に、死の危険が迫っています。

◎ カトリック会館六階に身障者用トイレが出来ました。御利用下さい。

◎ 「家庭奉仕員に対する報酬を障害者自身の負担にするための法改正に反対する署名」に御協力下さい。

奈良司牧評議会報告

2月20日奈良教会で開催された。その報告は以下の通り。

一、教区ビジョンの実践報告

ボランティア活動。教育活動を通じて、福音を生かす努力、その中で「あせびセンター」の活動を評価する。祈り、典礼に生きる種々の試み、教会運営も信徒の自覚が深まり、積極的に関わろうとしており聖書に親しむ努力も多面的にされており自己刷新に努力している。司祭修道女からもビジョンの精神を生かした活動を模索しつつ強力に動こうとしている事等、取り組みが進んでいる事を評価している。

二、県全体としてビジョンの精神に則って共通的に取り組もうとする事の提案。

(1)定住を望んでいるベトナム難民のための具体的な取り組み方。

各教会でとりあえず一名を二月中にきめ、この担当者会議を通じて、各教会の具体的な方法を考えて、自分の教会の信徒の協力を求めていく。センターのある御所教会の信徒の方の連絡により集会する。

援助方法、経済的援助(街頭募金も含め)子供達の世話。日本語の勉強のお手伝い。日常生活の手助け。住宅や職業のあっせん。公共団体との折衝等。

(2)教区の教理センターの支部的なものを県内につくり、信徒使徒職養成講座、教会学校教師会、典礼等の理解を深める事に努める。当面、ギニー師、Sr森川、岩井(奈良)が担当し、呼びかけを待つて

いる。其他対社会的行事等について検討事項として残されている。以上。

刷新の機会を！

ビジョン実現の努力の上で教理センター主催の信徒使徒職養成コースはとても大きな役割を果たしている様に思われる。

京都教区のビジョンの具体化がいろいろと考えられ、進められている時ですが、ビジョンの中で、一つの大きな課題となっているのが、教会と信者各自の刷新といことです。刷新に向かって、それぞれ一生懸命に努力しておられるでしょうが、その一つの機会として、いわばビジョンとタイアップして、ビジョンづくりの最初の段階からはじめられたのが、信徒使徒職養成コースです。

このコースは、第二バチカン公会議の精神を具體的、体験的に学ぶとともに、共同体育成や、信徒使徒職の意味、信徒の役割などについて、実際それが実行できるように養成するために行なわれるコースです。その参加者の中から、それぞれの人に与えられた恵みにしたがって、教会の種々の活動の中での信徒リーダーが生まれて来ることも期待されています。55年5月よりはじめられ、58年3月まで25のコースが開かれ、延400人を越える人々が参加しました。京都教区ではじめてられたものですが、最近では他教区でも同コースの開催を要望し、現在まで北海道小牧地区で5回、同北見地区で4回、名古屋地区3回大阪教区1回など、他教

区の各地方にも要望に応じて出張して開催しています。特に名古屋教区では、教区の宣教司牧評議会の方針として、同コースを名古屋教区全体に押し進めるように、司教様以下大変力をいれておられます。

コースは数種類あり、まずすべての刷新の方向づけを与え基礎をつくる基礎コース。それを修了した後、各自の役割や興味に応じて種々の方面の訓練が受けられるように、六種のコースがあり、選択して参加する事ができます。また次々と異なったコースに参加しつつ、継続的な成長の機会とすることもできます。

参加者の感想は「バチカン公会議の意味がはじめてわかった。信徒使徒職が自分のことであるとわかった。自信がついた。教会のすばらしさを味わった……」など、刷新のよいチャンスとなつています。現在三泊四日で行なわれている基礎コース、ちよつと参加しにくいと思われるかもしれませんが、必ずその値打があると思います。参加をお待ちしています。



あなたの良き隣人として

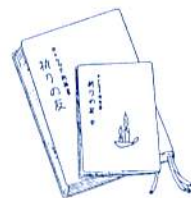
カトリック御葬儀・貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下 安雄

(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
電話 (075) 312-7829
(075) 771-7577



「祈りの友」の可愛い「ポケット判」が出来ました

カトリック 祈禱書
田中 建一 司教認可
発売元 宇治カルメル会修道院
取扱い 三条YBU書店

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通烏丸東入
電話 (221) 0976-7

ビジョン推進連絡協議会

ビジョン宣言から、約一年が過ぎた。その間、その実現の努力は、各方面で、なされている事が、時報によせられた記事だけでもかなり認められる。ところで、教区全体として、より具体化への道を取るため、その推進母体を作る合宿が昨年一月と六月に行われ、その結果、推進事務局は齊木師が責任者となり、田中司教村士(マ)師以下14名がこの任に当り、推

ビジョン具体化へ
向って

進連絡協議会開催の準備をした。
(注、事務局と協議会の役割と関係についてここでは省略する。)

連絡協議会は、京都五ブロックと諸活動代表、と事務局の計47名からなる。スケジュールは次の通りであった。
2月26日 6時集合、夕食 紹介
7時 司教挨拶 教区ビジョンスライド上映(教理センター製作)と評価

7・30

ビジョン実現について情報提供と交換

教区時報を通して見た、現状

分析と評価(村士ト)

9時

問題提起(司会Sr鎌田)

2月27日

取り上げるべき問題の仕分け

9時

七分科会による討議

1時(午)

昼食後、報告とまとめ

4時

ミサ 散会(計画では3時)

現状

分析



現状分析は、時報再刊S52年6月から今年2月(No.82)までに掲載された記事を六つのテーマに分けて分析した77ページにわたる報告書(発表者の意識では簡単に、聞く人には長く〴〵)を発表。これは以後の会議がより効果的という意図をもつてなされたものであった。

その結果次の事が考えられる。

ビジョンの実現は地道に少しずつ、気付かない所で進行している。従って、何もしていないというあせり、何をしてよいのかという戸惑いはあたらなない。

一方、かといってやっている点と有頂点にならず、行事の直直しをしてみる必要がずいぶんある事。又、やっているからビジョンは不用とする論理は成り立たない事に注意すべきである。ただバラバラに思いつきの様にするのでなく共同体意識を培いながら一つの方向を目指すすば

らしさだけでも大変有意義である(ビジョンの持つ意義についてこゝで論じない)

仕分け

この後Sr鎌田の司会で、ビジョンに就いて、我々が今特に取り上げるべき課題について皆の意見を聞き、事務局でも準備したものを含め15項目の中から、緊急課題として選ぶため投票を行った結果次の七つに決まり、これをもとに七つのグループに分かれる事にした。

1. 教会は障害者に対し(設備としても、精神的にも)開かれているか。
2. 司祭修道者信徒が、現状から見ても、共に教会を十分に担おうとしているか。
3. 青少年の少い教会をどうするか。
4. 平和問題とどう取り組むか。
5. 各小教区の弱い立場に置かれている人の実態を知り、具体的にに取り組む事。
6. 難民問題にどう対処するか。
7. 自己刷新の意味の共通理解。ビジョンアレギーに関わる問題。

部分討議と報告(27日)

9時、組分けをし、討議に入る。
尚討議内容は、具体化への道を摸索する事であった。

1時、報告(注 勿論感謝し、食事して後、食事は一致の印)

第一グループ 「障害をかかえて
いる人と教会」

具体化の第一歩、障害者自身又健康者自身の意識革命(互いの反省と改心)
大前提、信徒は皆キリストより贖われ

た兄弟である。

障害者はお客様でなく、中心であり、慈善の対象ではない事を健康者は考えるべき。障害者自身自分の中にある甘えを克服すべきであろうし、祈り其他の積極的役割を持つ事、身障者自身の中に光り輝いているものをその様な子供をかかえる両親達には特に持つべき。

第二步 障害者とその身内の人々は、その痛みを勇気を持って謙虚に訴えるべきであり、健康者はそれを素直に愛を持って聞くべきである。

特に子羊会、身障連の人々を通じて、その声を聞く。この事を説教壇より訴える。

第三步。その声を聞いた時、具体的な方向が示される。例えば車椅子に乗る方の意見を聞いた時、具体的な方向が出てくる。例えばリフト付の車が出来たが、固定するものが車内にない。(健康者が善意で何かする時何か見落としがある)

第二グループ 「司祭修道者
信徒の関わり」

「司祭、修道者、信徒が共に教会をになおうとしているか」

1. 司教評議会の設置を
- (1) 各ブロック、又は教区レベルで
- (2) 半年以内に準備委員会を設置する
- (3) 司祭評、修道会、信徒協の代表者で事務局を作る。
2. 各役割チェックマニュアルを作りたい。



第三グループ 「青少年の少ない教会をどうするか」

- 1 実態調査、実状認識、問題の抽出。
 - 2 魅力ある教会作り、教会を精神的、物理的に開放。不信感をなくす。
 - 3 青年が気楽に、情報交換の場を作る。
- 本音の云える教会、長期的に考える以上の様な事を小教区でまず考える。

第四グループ 「平和問題」

- 1 平和を祈る日を作る。
 - 2 平和と戦争を考え、体験出来る場作り。
 - 3 学ぶ為の講演会、学習会を設ける。
- 又そのための委員会を作る。

推進委員会の設置

- 1 平和旬間に教皇メッセージを頼む。
 - 2 教会が現在実行している平和活動促進。
 - 3 対外的な目の向け方を考慮する。
 - 4 平和と戦争拒否だけでなく、広い意味での平和問題に取り組む。
- 人権平和委員会の設置(最終結論)

第五グループ 「弱い立場の人々」

- 1 弱い立場に置かれている人とは社会的、経済的、精神的に弱い立場。子供、青少年、女性、老人、病者、障害者、被差別部落の人、在日韓国人等2頭に入れておくこと
- 弱い立場に置かれている人を正しく知る
- 同情のためでなく、我々が忘れていているものを取り戻す
- その置かれている理由を問う
- 現実にはその人々と関わらねばならぬ

- それらの人々に耳を傾ける
- 各々の状況があり、安易に関わる事を慎む
- 常に問い直し、反省し謙虚な心を持つ

3 具体化

個人―置かれている地域で小教区―民生委員等の接触をもつ、問題にとりくめる組織改革
教区―学習会、正平協、SVP、身障協、子羊会の協力を得る
企画、推進、調整をする機関の検討
例えば人権平和問題を考える委員会

第六グループ 「ベトナム難民問題」

具体的な事

- 1 教区の中のベトナム難民基金を作る
- 2 米一握り運動
- 3 祈りと献金
- 4 職業の展望への協力(リスト作成)
- 5 連帯意識を高める(例えば時報により)
- 6 乳幼児 子供達の世話

第七グループ 「自己刷新とビジョンアレルギー」

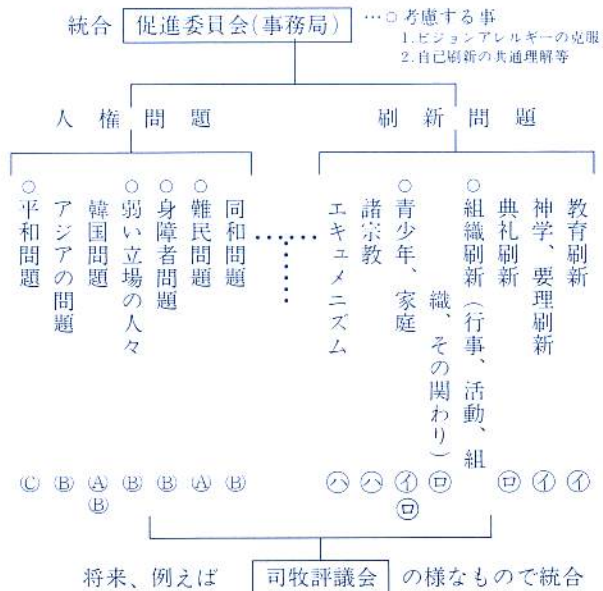
1 ビジョンという言葉に気遅れ 拒絶反応を示す人を無視しないでおこう

- 2 自己刷新とは神に立ち帰り心を開いてキリストに聞く、社会の中で個人の中で働き生き給うキリストに出会う事。
- そのため、聞く事、祈る事、種々の信心を見直す事、活動主義の危険に注意し、祈りを基礎とした活動を大切にします。

- 3 表立たない人に光を当て、参加したくても戸惑っている人に呼びかけよう。

ビジョンを具体化するにあたって頭に入れておくべき事

前述の様にビジョンを具体化していく時、種々の問題が起こってきますが、その際、次の様な図式を頭に入れておく事が混乱を避ける事になると思う。



注) 促進委員会との関わり等、考えねばならない。

○は今回取り上げられた事

- ①特に居住権
- ②特に社会の一員として
- ③生命を脅かすものに対し

- ④教え
- ⑤対内的一致と霊的發展
- ⑥対外的宗教態度

注1 最初は、各委員会作りからはじめるより、問題による集いから始めた方がよいと思う(委員会作りはその後)利点(1)委員会をふやす事は組織を複維化する。(2)自分の取り組んでいる問題と他人の問題との関わりを考えていく上で。

2 然し出発は既成の委員会中心に呼びかけ人となってもらい、全体に広がりをもたしていく。



3月8日(火)

平和人権委員会設置案についての集り

2月27日、ビジョン推進連絡協議会合宿において提案され、賛成多数で議決された「平和人権委員会」について、担当者グループ有志が集まり、論議した結果次の様な結論に達した。

1「人権平和委員会」という組織を作るのは時期尚早である。

2そこで「平和委員会」を作り、平和について、具体的取り組みや、共に祈る輪を教区内にひろめる活動をする。現在ある諸活動団体の一つになる。

3司祭評よりの提案があった「平和旬間」の取り組みについては、教区内諸活動、小教区修道会に呼びかけ、共に平和、人権の諸問題を学習し、認識を深め、共に祈る場づくりをする。そのため平和旬間実行委員会を作り、その呼びかけ人として、このグループがあたる。

4更に具体的アッピール

「平和を祈る日を広めよう」

私達平和問題を考えるグループは、毎月聖母に捧げられた第一主曜日を「平和を祈る日」にする事を提案します。それは私達が意識して、平和を考える事が、ほとんどないのではないかと思つたからです。ひと月に一度、「平和とはどういうものか」、「平和な世の中にするには」と考える人が増えて、この大きな問題を具体的に考えていけるようになりたいと思つたからです。

そこで四月二日から始め、心の平和と戦争のない世を求め、祈りと犠牲を捧げよ

うではありませんか。

一、カリタスジャパンは、昭和50年、ベトナム難民、日本到着当初から、教区、小教区、修道会の協力を得て、アジアのこの小さい人々を受け入れ対処してきたが、CJを最も頼りになる機関として期待している。

昭和49年、教皇は「インドシナ難民のための訴え」を出され「教会共同体は、

難民に対して



これまで多くの愛と共助の仕事を担当してきましたが今この時こそ助けを求めているあらゆる人々がわれわれの隣人であることを思い出していきたい。そしてこの難民に対して、とりわけ、その定住についての各自の寛容と創造力のゆるす限りの具体的能力をもって対処してほしい」と訴えられた。

去年秋、臨時司教会議において、最も身近な隣人であるこれらの難民定住に積極的に取り組む事を決め、12月日本カトリック司教団は難民定住についてのアッピ

ールを出した(カトリック新聞2月27日号)

その中で日本の教会をあげて、カリタスジャパンを中心とし、多くの小教区修道会の協力ののもとに、難民の保護と救済のための活動を行ってきた事を、感謝と共に思い起こしながら、現代の世界は構造的に貧しい人をより貧しく、弱い人をより弱くしている傾向にあり、難民の問題もその一つであることを指摘している。日本政府もようやく世論にこたえ、去年一月、難民条約を批准し、諸機関、諸団体の連携と協力のもとに、難民問題の検討と施策を行っているが、難民問題は更に困難な状態に入っている。

それは、一、難民の入国は相次ぎ、二、更に滞在は長期化し、三、今まで入国を引き受けていた諸国は国内事情の悪化のもとに入国を閉ざし始めた事、四、そのため日本定住を希望する人がふえている。

(注、CJ関係の施設収容人員中五八八名は出国不可能となっている。定住希望者二一一名)

教皇様のアッピールに続き、第三回アジア司教協議会は、難民問題をアジア共通の問題として取り組む事を申し合わせた。ちなみに昭53年6月タイの司教団は相次ぐ難民の流入により、国内に貧困と失業の困難な問題をかかえている事に加え、更に深刻な問題となっている事を全世界に訴えている。

そこで日本司教団は、社会司教委員会のもとに、難民定住カトリック全国対策特別委員会」を設置し、難民の日本への定住促進のための活動を推進する事にし

た事をのべている。

二、「難民対策特別委員会」は

社会司教委員会(白柳大司教)のもとに、海外移住、国内移動、カリタスジャパン、正義と平和の各担当司教と秘書の司祭、管区長協議会議長、女子修道会総長管区長会会長らによって構成される。

この委員会は、教区の難民担当者(京都はカーティ師)又は対策委員会と連携協力していく。

定住に必要な準備についての理解を得るための文書を作成する。

三、難民収容状況

入国難民総数六、六一六名、第三回出国者四、二四二名

国内定住者二六六名、死亡者九名

現在日本に滞留している難民一、八八九名

滞留難民三三ヶ所のキャンプがあり、

内カトリック関係は二二キャンプに六八七名を収容している(京都は御所に七七名)(日野六九名)

四然し最近諸外国の国内事情の悪化に伴い、受入れが縮小され、可能性のあるものは、その国に家族あるいは確かな引き取り手がある場合に限るため出国可能者は四〇〇名にすぎず、一、七〇〇名は不可能となり、近頃だんだん、日本定住を覚悟せざるを得ない状態になった。

五日本に定住する難民が一人だち出来る様に次の様な方法で手伝う事が出来る。

①スポンサー(後援会)として。

定住には小教区、教区、個人なりの後援者が必要となる。個人又は団体において

受けとるかどうかを確認した上で次の事を考える、(そのため各小教区で対策委員会を設けてほしい)

(1)職業の斡旋

各方面に働きかけて、就職リストを作る。これによって本人に選択を可能にする。(多くの人は力仕事、寒さに弱い。単純な仕事は出来るが、複雑な事は、特殊技能を持たないとむずかしい。彼らの技能を生かせる様にはかる)雇用の際し、弱点を利用し欺される事もある。よく注意してあげる。出来るだけ本採用になる様助ける。

(2)安く借りられる住居の斡旋 又安価な(出来れば無償で)家具を備える様、配慮する。家具についてははじめ、小教区又は教区で出来なければカリタスジャパンで負担する事も必要だろう。

(3)教育関係の処理

(イ)特に日本語教育の適切な方法を考える。日本語教師の紹介、勉強の場の提供。尚必要な費用は小教区、教区、CJで考慮する。

(ロ)社会教育、地域社会と適合出来る様に指導協力する(例ゴミの始末、防火対策、光熱費の支払方法等、)

(4)公的機関との交渉。定住許可を得た難民は、難民条約により、日本人と同じ権利と義務が与えられる。それが正しく行使される様に連絡を密にする。(政府は条約に批准したものの実施にあたって非常に消極的で戸惑いを感じている)

公的機関の交渉には例えば次の様なも

のがある、社会保障、年金の手続き、其他地方自治体関係の諸手続、外人登録の更新など(尚定年までの諸手続はカリタスジャパンが担当する)

②ボランティア

日常生活のための援助を定期的又随時行う。(はじめは出来るだけ、当番をきめるなどして毎日つき合う様にする)



○買い物、郵便局、銀行、病院等の付添い

○隣組とのつき合い、慣習を教える

○交通機関の利用法

○言葉の習得の援助を経済的にする

○日本の文化慣習を決った会場でカリキユラムに従って教える

○彼等の祖国の伝統行事、料理等を楽しむ機会を作り、彼等同志の交流の場を

作る事

○子女の教育が出来る様、地方の教育委員会とかけ合う、幼稚園はカトリック系、又制服や、教具等使用済みのものを再利用出来る様計う、地元の小学校、地域の中学校に入学出来る様交渉する。尚子供がいる家庭は、言語習得は簡単に出来、子供を通して社会となじんでいくケースが多い。

○健康、衛生的な指導

○教会は社会の専門家たち(教師、医師、弁護士、公務員等)の知人を得て相談にのれる態勢を取っておく様に配る。

六では教区としてどうするか

さしあたって、御所キャンフの七七名の落ち着き先を考えねばなりません。日野の方は、東京に出来る難民定住センターに入所予定である。

①各小教区、修道会で家族、友人と共に生活出来る様に考慮して引き受けられる可能性を探ってほしい。そのため小委員会を、小教区又は近隣小教区等で作ってほしい。

②その際(五で述べた事を考慮してほしい)

③この事をふまえて、ビジョン促進委員会が緊急課題として、奈良を中心にして具体化が示されるであろう。その節には各方面の協力を期待する。

司教様曰く「今、教会が具体的に取り組まなければ、教会は社会から見捨てられるでしょう。」

「追」たとえ善意があってもキャンフの施設長の許可なく、自由にキャンフに出

入りにない事

京都教区召命促進委員会

昭和50年、チャイコフスキー師(メリノール)によってはじめられたこの委員会は教区司祭、宣教会司祭、修道会シスター(超修道会)計七名によって構成され、時に応じて、神学生、信徒、若者達を借りながら共同体としてのかかわりを大切にしつ、活動にあたっている。

活動内容

おもに教区内の青年男女を対象に召命についての正しい知識を伝え、その自覚をうながし、すべての人の中に働く神の声を聞きとっていくため、祈りの中で自己を見つめ、分ち合い、神のそれぞれの呼びかけにこたえていける様に助けている。そのため、黙想会或いは練成会を年に三回程度行う。(すでに十七回行った)

世界召命の日にあたり、教区の人々を対象に召命についての自覚を促すため、パンフレット作成、召命の日のプログラムを計画する。

参加した人と事後、出来るだけスタッフが接触や折りによって結びつきを考えクリスマスカード等を送る。

成果

1 スタッフ自身のうちに共同体としての交わりが次第に深まっていた。

2 多忙で複雑な社会で自分をふりかえり、時がなかったし、自分がどこに招かれているのかとの戸惑いの中で、個人黙想、面接、体験と聖書の分ち合い等によって、神との出合いを体験した人、又司祭修道者の道を志した人々がいる。

コミュニケーションへの提言

小教区編

こ、数年、教会の内外を問わず、対話とか、分ちあひ」といった言葉がよく使われています。もう一つよく使われる言葉に「コミュニケーション」があります。片仮名であらわされる外来語に、少々抵抗を感じる人たちの間でも、「コミュニケーション」は結構通用しているようです。

字引をひくと、「コム」は共に、「ユニ」は一、「コミュニケーション」は伝達、連絡の意味であることがわかります。

「コミュニケーション」の言葉の中に、こうした意味があるとすれば、(伝達するものを共にしながら一つになってゆく)と解釈してみたらどうでしょう。

キリスト者が伝達するのは、私を救うため十字架上で死なれたおんひとり子が、復活して私と共に今いてくださるという信仰ではないでしょうか。そして、その信仰を共にするとは、他の人が心の底を語る時、神が私に与えられた聞く能力を十分に発揮すること、また私の日々の生活を通して、復活されたイエスが私に出会って下さっている体験を、機会あるごとに表現能力に応じて、まわりの人に表し分かちあう事ではないでしょうか。こうして、復活したキリストを伝え、共にしてゆけばキリストのうちに一つとなる

ことは当然だといえましょう。言い換えれば、「コミュニケーション」はコミュニケーション共同体をつくり出してゆくことです。

「聖体拝領」は、英語で「コミュニケーション」といわれ、字引には「腹職なき交り」とあります。神ご自身が私の中に入って交って下さること

これ以上のコミュニケーションが他にあらでしようか。しかし、私のうちにおられる神・イエスは、おん父の栄光をはつきりと表すため、ご自身の肢体、キリスト共同体の完成に向うべくこの世に他者とのコミュニケーション・福音宣教を私に望んでおられます。

キリストを知らない人たちでさえ、いろ／＼な対人関係、家庭の円満、世界の平和はコミュニケーションなしでは成り立たないことを知っています。キリスト者にとっては神と人、人と人とのコミュニケーションの両立こそ、キリストの心



になうことだと思えます。

さて、小教区のコミュニケーションの現状はどうでしょう。正直なところ、私のまわりではあまりうまくいっているとはいえないようです。復活祭ミサの後のハルティの準備とか、婦人会の集りのお知らせ程度はよく聞きます。しかし、一人住いの方が病気で困っているとか、子どもの教育について悩みを打開けられて、信仰につながるあたりまで話したという例はあまり耳にしたことがありません。

時報82号の「社会と共に歩む人物記」徳さんの記事に「比国、インファント教区内のあるバイブルクラスを見学した時、無学なみすばらしい老人や、井戸端会議に喧しいおばちゃんたちが、みことばを生き／＼と分かちあっているのを見て、感動した」とありました。

心にあるものを、他の人に率直に表現するまでには、日常茶飯事を分かちあえるほどの付き合いをする努力と同時に、何かの方法で信仰のレベルにまで、コミュニケーションを掘り下げる工夫が必要だと思います。

教区内を広く見れば、このようなコミュニケーションが出来ている小教区もあるようです。またF教会、M教会、K教会では、司祭常住でありながら、信徒の信仰の深い分ちあひ、成長を目標に、信徒による主日の説教等も試みられています。三重県のS教会では、信仰のレベルでのコミュニケーションを意欲的に進めるために、グループをつくってキリスト教講座を昨年からはじめています。同教会では聖書研究グループもあり、信徒が生きていくことに感謝しているとのお話を同教会所属のシスターから伺いました。京都市内のS教会でも、始んど

の信徒が教会内の多くの小さなグループのどれかに属して、コミュニケーションの成績はそう悪くないという自己評価があるようです。た、こうした小グループが組織的に整ってしまつと、ゆとりのあるコミュニケーション、絆を脱いだ付き合いは、少々むづかしいというのが信徒間の感想です。以上はほんの一例を示しました。もっと時間をかけて、他の小教区を聞いて歩けば、よりすばらしい方法、現状を皆さんにお知らせすることが出来ると思います。それ／＼の年令グループ、特に青年グループとのコミュニケーション、信徒と小教区司祭のコミュニケーションについては、別の号で紙面をさく予定です。

さしあたって、あなたに宛てられた四旬節司教書をみんなと話して見ましょう。



(Y)

☆小教区の頁☆

亀岡教会

亀岡市は、京都市の北西約十五kmの地点にある田園都市です。

昭和三十三年、

亀岡教会の旧聖堂が献堂された当時は、市の人口も四万人弱でしたが、現在は七万三千人にも成長した若き溢れる発展途上の地方都市です。

皆さんにもなじみの「保津川くだり」の出発点で



もある亀岡は、保津川の清流と、緑の山々にはぐくまれ、千年のみやこ京都とともに、歴史的に多くの物語を秘めたロマンの里でもあります。

亀岡に隣接する八木市は、ユスト高山右近の霊弟、ジョアン内藤が八木城主として居城した所で、昨半夏、彼の遺徳を賛えて顕彰碑が同町に建立されました。

この地、口丹波には、既に四百年前(室町時代の末期)に、神の福音を宣べ伝えるひと粒の種が、神の御手によって蒔かれていたのです。

彼らの篤い信仰と、その威業を受け継ぎ、現代に生きる私たちは、「開かれた教会」を中心に、あらゆる活動を通じて地域社会に示していきたいと、小さなことから少しずつではありますが、その輪を拡げてまいりたいと思っています。

一昨年十月七日、現在の新しい聖堂を献堂していただくという大きなお恵みがありました。これは、市の都市計画への積極的な協力でもありました。

信仰生活とは日曜日ごとにミサにあずかり、維持費を納め、信者としての少々の道徳的な義務をはたしていることで十分だと考えられている。

現代社会の日常生活と合致しない。そこで信仰生活は信仰生活、日常生活は日常生活と切り離して生活するしかない。

キリストはこれらの最も小さいもののひとりにしなかったのは、すなわち、わたしにできなかったのである。と云われま

しかし、この喜びもつかの間、新聖堂初代の主任司祭として赴任された松田友明神父様が急逝され、一同悲しみに沈みました。神の御摂理を深く心に刻み、新しくお迎えした、花井拓夫神父様(桂教会主任、当教会兼務)を中心に、また新たな気持で活動を始めました。

主任神父様が兼務のため、日曜のミサは、週毎に午前、午後と変則的に行なっておりますが、この頃やつとこの習慣にもなれてきたようです。花井神父様には大変お忙しい日曜日を送っていただいておりますが、壮年部(ヨゼフ会)、婦人部(マリア会)を中心に、教会学校(高・中・小学生の各クラス)をはじめ、主日の典礼奉仕、聖堂掃除などを当番制で全員が協力しております。内部活動もどうか軌道に乗りましたので、これからは外へ目を向け、「開かれた教会」を実現のため頑張つてまいりたいと、一同大いに張り切っております。

(ヨゼフ会(広報担当)中島容太郎)

信者において社会の諸問題にかかわっていくことは義務である。この義務を怠ることは神と隣人に対する義務を怠った



神の子らの一致

ことになり永遠の救いは約束されない。

難民定住のための援助の緊急性を理解せず、差別問題を素通りし、公的機関の



昨年(五七・一二・二四)のクリスマス・キャンドルサービスに、九十名が参加して市内を巡行しました。

福祉予算の切りすてを黙視し、武力の均衡による平和をそれでよしとしているならば、どうしてこれがカトリックの信仰と誇つていられるだろうか。

三位の神格の一致は、私たち神の子らの間の一致との類似性を示している。

神は人間が、自分自身を無私無欲の気持ちで仕えることによって、全人類の「愛における一致」を要求しておられる。神の望みの内にある信仰生活でありたい。

(主任司祭 花井拓夫師)



◎コミュニケーションを少しでもよくしよう、八月の研修会から、司祭達の一部が集まって、合宿をした中で、こんな

◎コミュニケーションを少しでもよくし

提案がなされたそうです。将来の教会を担う青少年の召出しを願って、毎月の第二水曜日断食しようではないか。この様な事は祈りと断食によらねばと考えられたからでしょう。そしてたぶんその食事代を養成のために捧げようとか……。

それに、何人かずつ、日曜日から月曜にかけて、他の地区の司祭方に会いに数名ずつ出かけようではないか、とか。少しずつですけれども何かが始まっています。これが、司教様の云われる不思議な集まりの事の中の一つの様です。

修女達(折り 神に向って飛ぶ矢)

◎修道女の方々も、唐崎のノートルダムの黙想の家に集まって、昨年6月28日か

修女達（祈り 神に向つて飛ぶ矢）

◎修道女の方々も、唐崎のノートルダム
の黙想の家に集まって、昨年6月28日か

今年の一月二十三日、八才八
 ヶ月になる末信者の少年真君が
 手術不可能な脳腫瘍の爲、神の
 もとへ召された。しかし、この
 少年は頑張り抜いて、入院後の
 一年七ヶ月の日々を苦しみの内
 に過ごし、神に捧げたたの
 である。

“この盃を……”

或る少年とお母さん

八ヶ月前に他教区の一信者の方からK教会に病院訪問の依頼があり、数名の婦人が毎日交替で訪問することとなった。始めて訪問した時には、少

しかし、婦人達の献身的な奉仕により徐に立ち直られたようである。

年は既に身動きも出来ず、手や足も自由ではなく、話すこともできない状態で、意思表示は全て目と口の開閉のみで、悲しみ苦しみ喜び等を訴えていたのである。又真君には精薄のかかった自閉症の兄がいる。両親は真君には何も構ってやる

真君は、毎日神父様や婦人、青年達に絵本を読んでもらったり、折り紙を折ってもらったりの日々であったが、なかでも神父様が来られると、とても表情が明るくなり、目が輝いてくるのであった。純粹な心を持ち、苦しみに堪え抜いてき

ら○日まで、慘道会を起えて、ビジョンのために祈る会を催されたそうです。祈る人あれば、実践する人がある。又実践は祈りに根ざしている。ここに神と人と人ととのコミュニケーションがあると云うべきでしょうか。

マルタがマリアをとがめた様な事になるのではなく、観想家と活動家の間の霊的な交わり、一人の人における観想と活動の一致、それによって神秘性が出来上っていくのでしょうか。どこかで、私の知らない人が、私のために祈っていてくれる。今どこかで働き疲れている人のために祈り・犠牲を捧げるとは何んとすばらしい事でしょうか。

た真君には、神父様のお話がよく分かり、神の存在、キリストの受難と復活を知る事が出来たのかも知れない。天に召される前の真君は、この世のすべてを悟った大人のように安らかであったという。確かに彼の姿を思い出す時に、子供らしさ

ない可愛らしい少年であった。ひとりの婦人は、短い生涯であったが、特に一年有余の闘病生活の中で充分に両親と過し共に苦しみ分ち合う時間を神様はお与へになったのではないかと慰めておられた。私たちはこの一人の少年を通して、限りない神のはからいを強く感じたのである。重荷を負うて苦労している者は皆、わたしのものに来なさい。休ませてあげよう。(マタイ 11・28)

教会と教会（風船使節）

◎奈良の子供達が、風船にメッセージを
そなえて、飛ばしました。それは、はか
らずも、伊勢教会で司教様が堅信のミサ
を捧げるためにおいでになった、その日
庭に落ちてきたのだそうです。それは、
伊勢の教会の信者さんに、とても大きな
喜びのメッセージだった様です。

時報よりのお願い

(オカミを通じ)

◎みなさんの小教区で、又みなさんの近くで、おこっている出来事を、何でも報せてください。小教区報がありましたら、是非、送って下さい。何故、編集部は足で探しに来ないかとお叱りを受けます。でもお察しください。今三人で他の仕事をしながら編集しています。各小教区を担当のみなさん、又拡大編集員として報担当のみなさん、又拡大編集員としてお願いしているみなさん。よろしくご協力ください。さあこ、にもコミュニケーションの道が開けております。

記事、又は小教区報は、教理センター内
時報編集部にお願いします。

京都カトリック教理センター

〒606 京都市左京区仁王門通新高倉東入ル

電 (〇七五) 七五二一〇〇五七

電(〇七五) 七六一—九〇九五



聖母学院本館の二階に、私の別荘？があります。シスター・ホームがそこへ大きな体をなびかせ、恥かしそうに入ってきて来られ、開口一番「神父様、私恥かしい」と手を顔にあてながら、愛嬌ある顔がほころんでいました。

シスター、インタビュというとき堅苦しくなるので、気楽にお聞かせ下さい。

シスターはこれで何回かカンボジアに行かれ、難民の苦しみをつぶさに見られ、又、そのための援助活動として、聖母の生徒や、河原町の婦人会、難民援護会の方々と協力して例えば四条で募金活動をしたたりしていますし、お兄様のインドでなさっているボーイスカウトのお手伝い等をなさっているわけですが、多分シスターとしては御自分の宣伝は望みではないでしょうが社会と共に歩む方法の一つとしてみなさんに紹介したいので、よろしくお願いしますね。

（まずお兄様のボーイスタウン設立についての話は面白い話を聞かなくては割愛する。尚時報82号P3参照されたい）
「まずインドの里親制というのをしていますね。」

そうです。マザーテレサの映画を見た時、星宮先生が何か出来ないかと私に相談され、兄に問い合わせたところ、さしあたって最もやりやすいのは、里親制という事でした。そこで各学年一人づつ計5名の里親になる事にして、一人30円づつ集めます。同窓生やその先生方とその友人などで今、30名くらい入っていて下

さいです。

（シスターはボーイスタウンニュースを出してその様子を報告しておられる）

「里親制の方は、シスター・ジーンもやっておられるので、もう一つカンボジア難民の方について話して下さいませんか。動機はどうだったのですか。」

はじめ一人の東南アジアの留学生が戦争が始まった時、募金をはじめましたが誰も協力してくれませんでした。そこへ小野先生（カンボジア難民救済会事務局長）が通じかり、そのための手伝いをクリスチャンの人々にお願ひしてみよう



シスター・マーガレット・ホーム
（ヌヘール会 聖母学院）

社会と共に歩む人物記(8) 貧しい人の家に壁はない

と学校に来られ、Sr末永とSr真隅が会われ、協力しようという事になり、私に助ける様に願ひました。先生方にはかり、応援を求めて賛成してくださったのです。三年前のクリスマスから始めました。私は募金しながら、通訳者として協力する様になったのです。（ちなみにシスターは難民事務局長）そしてカンボジアにも行く事になりました。（その一部が本時報78・79号に連載されている）

「では協力者に対してどう感じられますか。――驚いた事に、やっている人の喜びとこの機会が与えられた事への感謝の心

です。高三の娘達の校長面接で、彼女がみな言った事は、この様な機会を与えて下さった事への感謝の言葉でした。ある娘は、四条の橋に立っている時、最も自分を感じた、と云ってくれました。冬の寒さにここへながら、にこにこしていた。それは人のために何かをやる喜びを感じてくれたのでしょう。彼女達が感じてくれた事は、金では人間の問題を解決できない、本当の喜びは人間同志の触れ合いだという事です。里親制を知ったあるインド大使のお嬢さんが、私はインドでは貧しい人に接しなかったが、こうして接しられて嬉しいと云ってくれました。

「では教会に対してどう思いますか。」

「つい批判的になるのですが教会は貧しくなっていないと思います。タイでこんな言葉

を聞きました。シスター・オフトウディになってくつて。たぶんマザーテレサのようになってくれと言う事らしいです。シスター達も、教会も壁の中にいます。貧しい家には壁がない。教会はへいの外に出してほしい。教会は、学校や病院を作りに行かないでほしい。木の下で学校、病院がほしい。つまり村の生活をこわしに行かないでほしい。村は住む所でも一緒に行く所でもない。往き来する所、行くなら邪魔するため、村の生活のレベルを上げるためではなく、必要を手助けをするためです。
「あ、助けるとは、相手とその自然性を

尊重し、その生き方を認めるという事なのでですね。
(M・T)



時報が対話
の手段なら
ば「互い」に
心を開けあ
も編集者も

◇アレルギーには心因性のものが多いと聞きます。ビジョンという言葉にアレルギーを感じる方もいられるとか。するとその心のわだかまりを取り去らねば、どっちが悪いというのではないのです。どっちも思いを変えてみる。心を変えて神に向き、神の支配が及びます様に。これでもアレルギーを起こすかな。
(M・T)

◇よい御復活祭をお迎えになられたことと存じます。草花や生命あるものも息吹き始め、地中の生き物たちもぞろぞろカッポシ活動を始めています。私の様に中々目覚めないものもいますが、夫々の希望を抱いて進級に入学に、又社会へと船出して行く人もいます。皆様の上に主の豊かな祝福とお恵みが与えられますように。
(K)

◇時報復刊以来六回目の春。小1の子どもが中学に進む年令まで編集を続けたわけ。時報に寄せる思いも、わが子を見るのに似る。だが過保護にはしたくない。教区民がキリストの目で自身を見直すスライムの役を果たす時報であってほしい。読んでいる貴方！ 投稿されては如何？
(Y)